

熊野川下流地域の概要

平成21年3月7日

三 重 県
和 歌 山 県

目 次

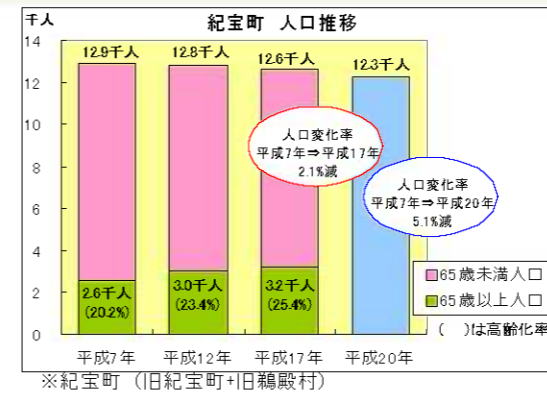
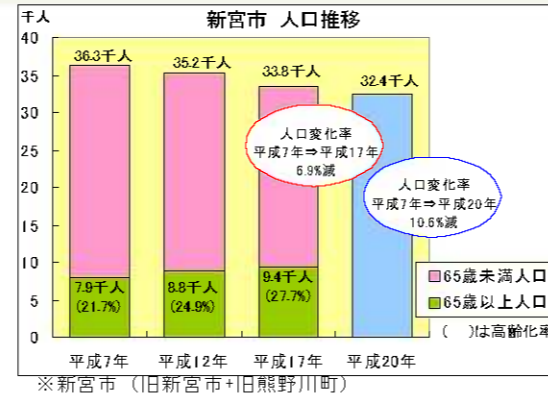
1. 地域の状況	1
(1) 新宮市、紀宝町の位置、人口	1
(2) 地域の主な施設	1
(3) 土地利用計画(都市計画)	1
(4) 地域の自然環境	2
(5) 地域の産業	3
(6) 地域の観光	3
(7) 地域の医療施設	4
2. 地域の交通の状況	5
(1) 地域周辺の人の動き	5
(2) 地域周辺の道路交通の状況(その1:交通量と渋滞状況)	6
(3) 地域周辺の道路交通の状況(その2:交通事故の状況)	7
(4) 地域周辺の道路交通の状況(その3:歩行者、自転車等の状況)	7
3. 地域の道路整備状況	8
(1) 地域周辺の幹線道路の整備状況(その1)	8
(2) 地域周辺の幹線道路の整備状況(その2)	8
(3) 地域周辺の幹線道路の整備状況(その3)	8
(4) 新宮市内の都市計画道路の状況	8
(5) 高規格幹線道路網の整備状況	9
(6) 総合計画における道路整備の方向	9
4. 熊野川下流地域の道路計画の課題・論点	10
(1) 課題・論点の整理	10
(2) コントロールポイントと概ねのルート候補の範囲	10

1. 地域の状況

(1) 新宮市、紀宝町の位置、人口



○和歌山県新宮市と三重県南牟婁郡紀宝町は紀伊半島の南端に位置し1級河川熊野川をはさんで隣接しています。
 ○人口は、減少傾向および高い高齢化率(65歳以上)となっています。
 ・新宮市(H17) 人口33.8千人、高齢化率27.7%(県平均24.1%)、人口減少率6.9%(県平均4.1%減)(H7~17)
 ・紀宝町(H17) 人口12.6千人、高齢化率25.4%(県平均21.5%)、人口減少率2.1%(県平均1.4%増)(H7~17)
 ○両県それぞれ、県平均と比較すると、人口減少率、高齢者率とも高くなっています。



項目	和歌山県		三重県	
	新宮市	県平均	紀宝町	県平均
高齢化率 H17	27.7%	24.1%	25.4%	21.5%
人口変化率 H7~H17	6.9%減	4.1%減	2.1%減	1.4%増

出典：国勢調査

<参考>平成20年の人口(各県HP公表値)を用いた平成7年基準の人口変化率

項目	和歌山県		三重県	
	新宮市	県平均	紀宝町	県平均
人口変化率 H7~H20	10.6%減	6.1%減	5.1%減	1.3%増

出典：H7 国勢調査
H20 和歌山県・三重県

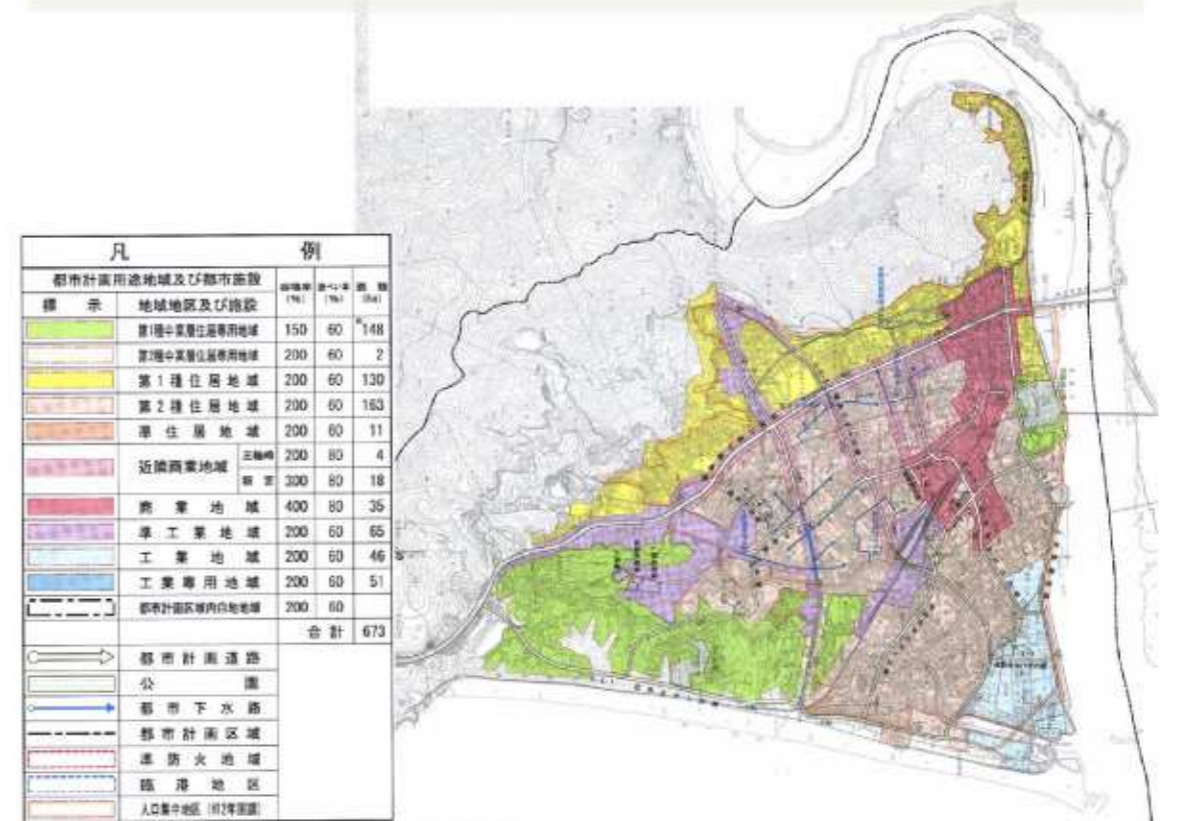
(2) 地域の主な施設

○役場、学校等の公共施設やお寺などの主要施設や、商業施設などの生活関連施設の多くが新宮市に分布しています。大規模工場は旧鶴殿村に位置しています。



(3) 土地利用計画(都市計画)

○新宮市街地における用途地域は、住居専用地域や住居地域、商業地域の指定が多く、河口部では工業地域の指定も見られます。
 ○紀宝町には、都市計画区域はありません。



(4) 地域の自然環境

○地域周辺には、吉野熊野国立公園が存在します。

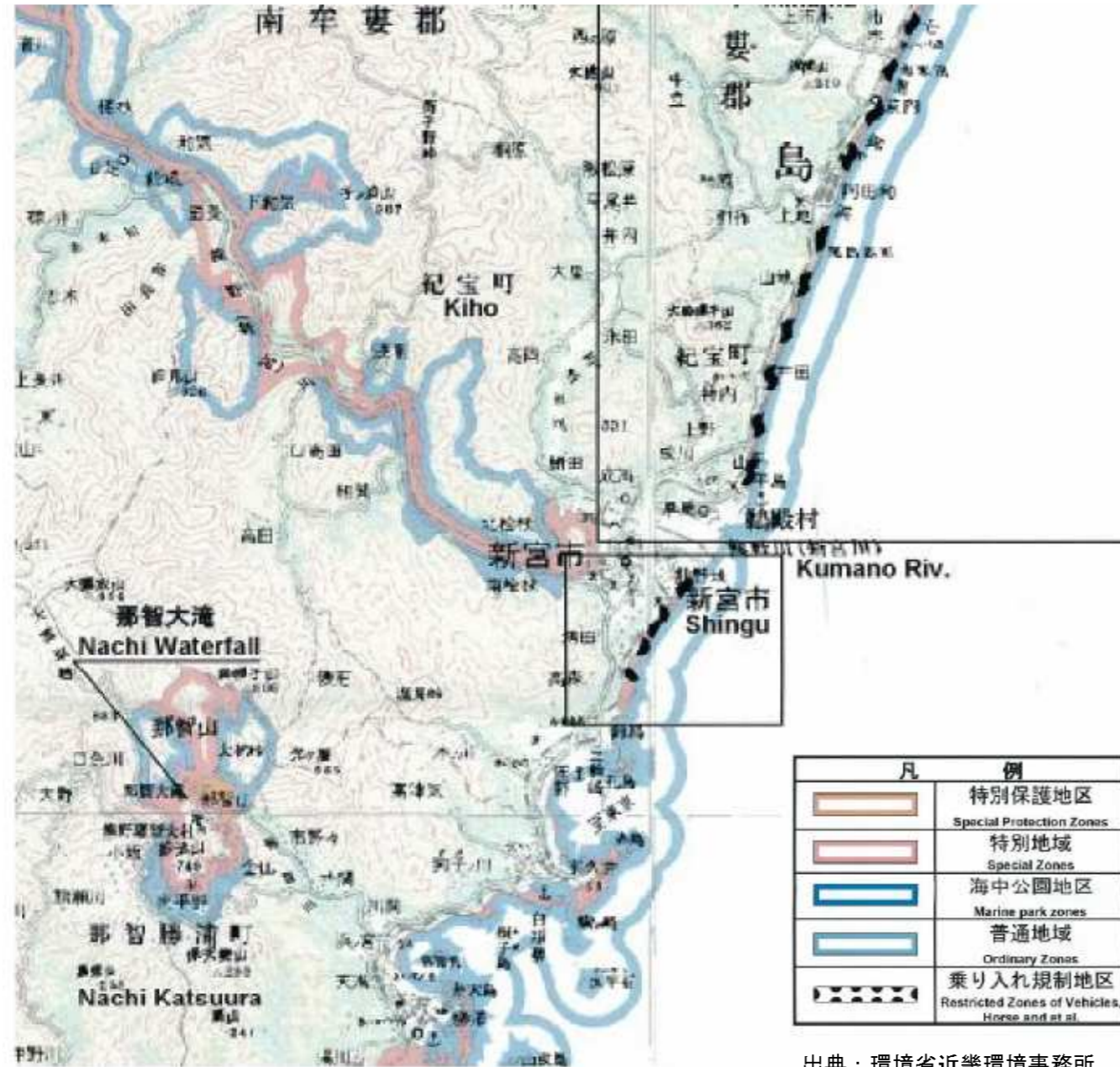
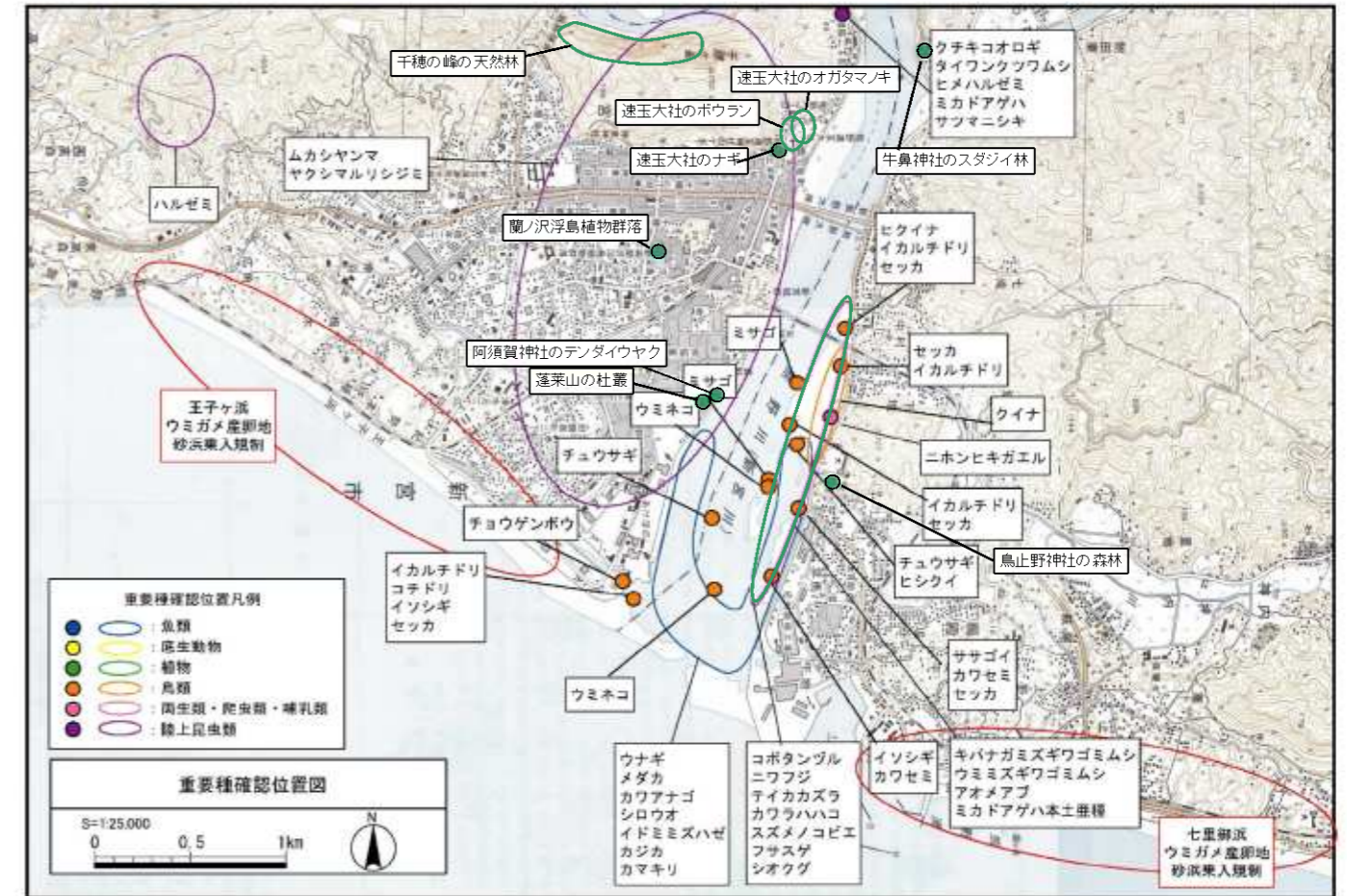


図 吉野熊野国立公園

○既存の動植物文献では、熊野川河口部に重要種の生息の確認が報告されています。



(5) 地域の産業

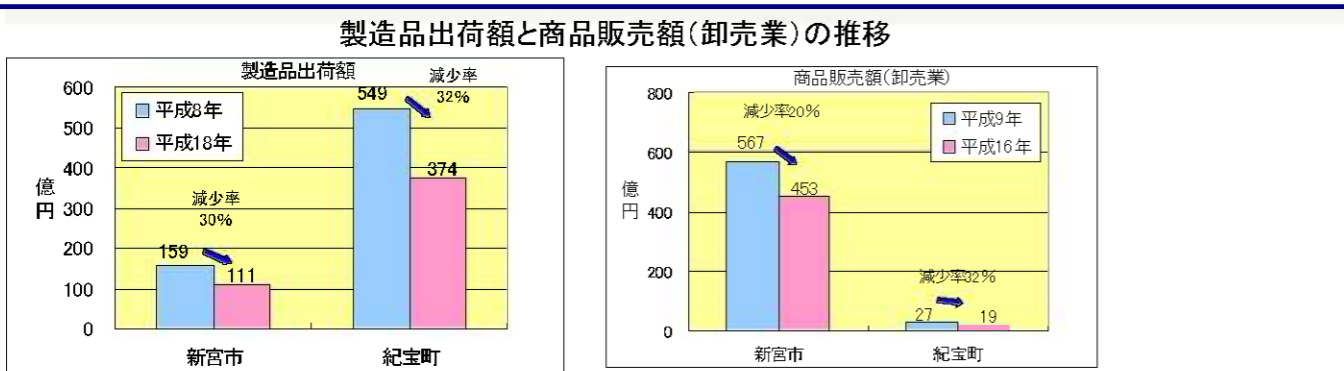
○当地域では古くから木材産業や製紙産業が盛んです。
 ○新宮市には特定地域振興重要港湾「新宮港」があり、背後地には新宮港第二工業用地があります。



○新宮市、紀宝町周辺地域の特産物は、主にトラックで名古屋や京阪神、京浜などの大都市圏へ出荷されていますが、大阪や名古屋まで4時間以上を要しています。



○当地域では製造品出荷額と商品販売額（卸売業）が低下傾向にあり、産業の低迷が懸念されます。



※新宮市 (旧新宮市+旧熊野川町)
 ※紀宝町 (旧紀宝町+旧鶴殿村)

出典：製造品出荷額「経済産業省工業統計」
 商品販売額「経済産業省商業統計」

(6) 地域の観光

○和歌山県新宮市、三重県紀宝町周辺地域には、世界遺産登録された熊野速玉神社、七里御浜や熊野古道、那智大滝など、歴史・文化・自然を生かした豊かな観光資源を有しています。

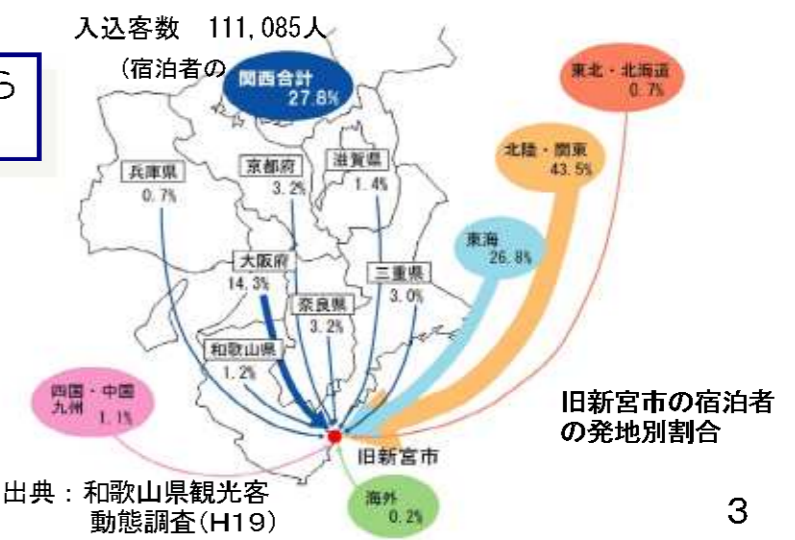


○新宮市 (旧新宮市+旧熊野川町) の観光客数(宿泊)が低下傾向にありますが、熊野三山地域全体や熊野古道(伊勢路)を訪れる観光客(日帰り+宿泊)は、世界遺産登録後増加しています。



出典：宿泊観光客数：和歌山県観光客動態調査

○新宮市には、東海地方以東の遠方からの観光客が多く訪れています。



(7)地域の医療施設

- 和歌山県新宮市、三重県紀宝町周辺地域には、3次救急医療機関※がありません。
- そのため、2次救急医療機関※である『新宮市立医療センター』『紀南病院』が地域の基幹医療機関としての役割を担っています。
- 中でも『新宮市医療センター』の診療科目が充実していることから、三重県側からの搬送数も多数発生しています。

※【3次救急医療機関とは】
重症及び複数の診療科領域にわたる全ての重篤な緊急患者に対し、24時間体制で高度な緊急医療を提供する医療機関で救命救急センターが代表される医療施設です。

※【2次救急医療機関とは】
2次救急医療機関とは、一般の救急病院のことで特定の病院に負担をかけないために、日によってその地区の病院が交替で救急患者を収容する病院群輪番制により受け入れられる体制が整っている医療施設です。

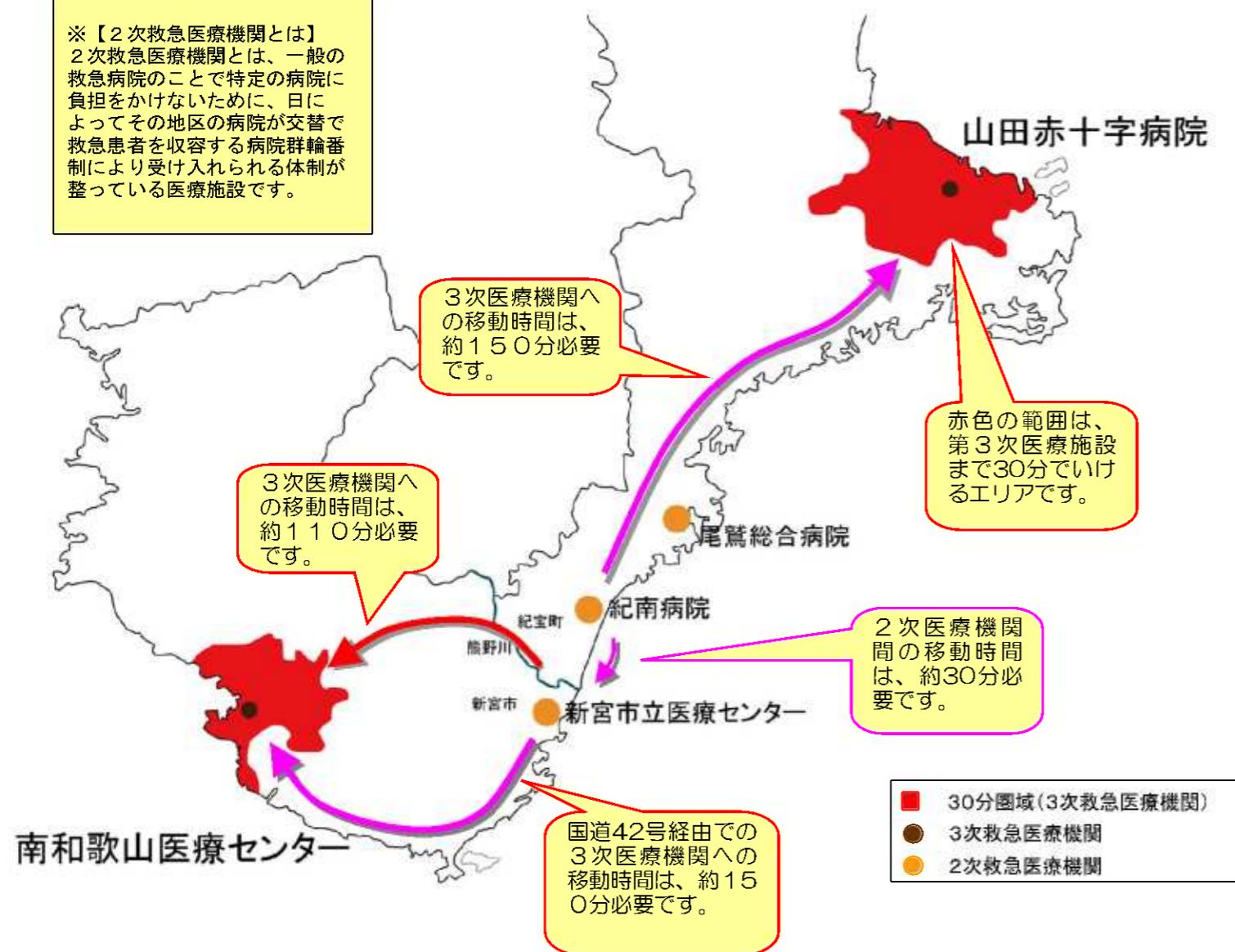


図 3次・2次医療機関位置図

①医療機関位置

和歌山県新宮市、三重県紀宝町周辺地域には、3次救急医療機関がなく、地域の2次救急医療機関が基幹医療機関としての役割を担っています。しかし、2次救急医療施設の所要時間が30分を要するなど、スムーズな救急搬送が困難な状況となっています。

②搬送先

熊野市消防本部の搬送先には、地域内の紀南病院だけでなく、熊野川を越えた、新宮市立医療センターへの搬送もみられます。

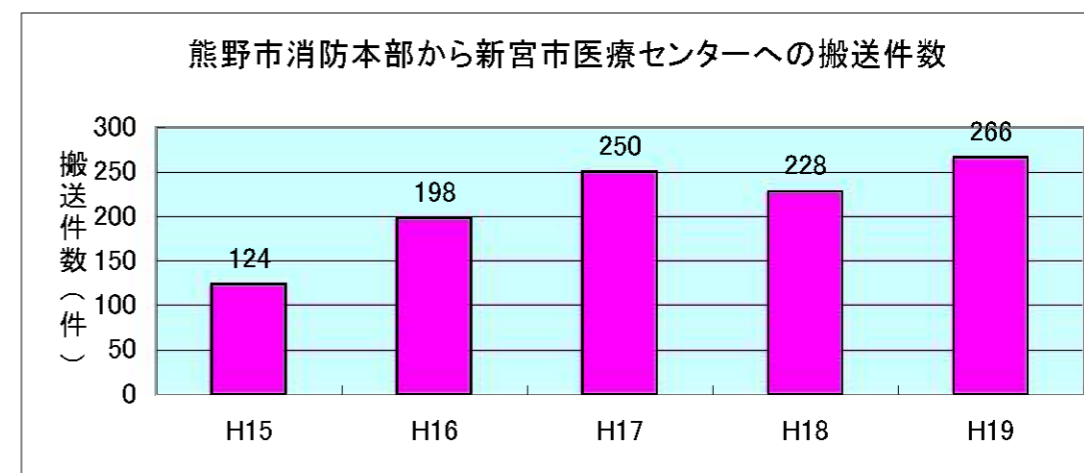


表 熊野市消防本部の救急搬送件数

単位:件数

	H15	H16	H17	H18	H19
紀南病院	1,448	1,561	1,566	1,488	1,541
三重その他	70	88	96	66	77
新宮市立医療センター	124	198	250	228	266
和歌山その他	2	3	0	0	1
管内医院(診療所等)	24	13	27	50	26
管外医院(管内医院以外の診療所等)	7	9	11	13	7
遠隔地	6	5	5	7	18

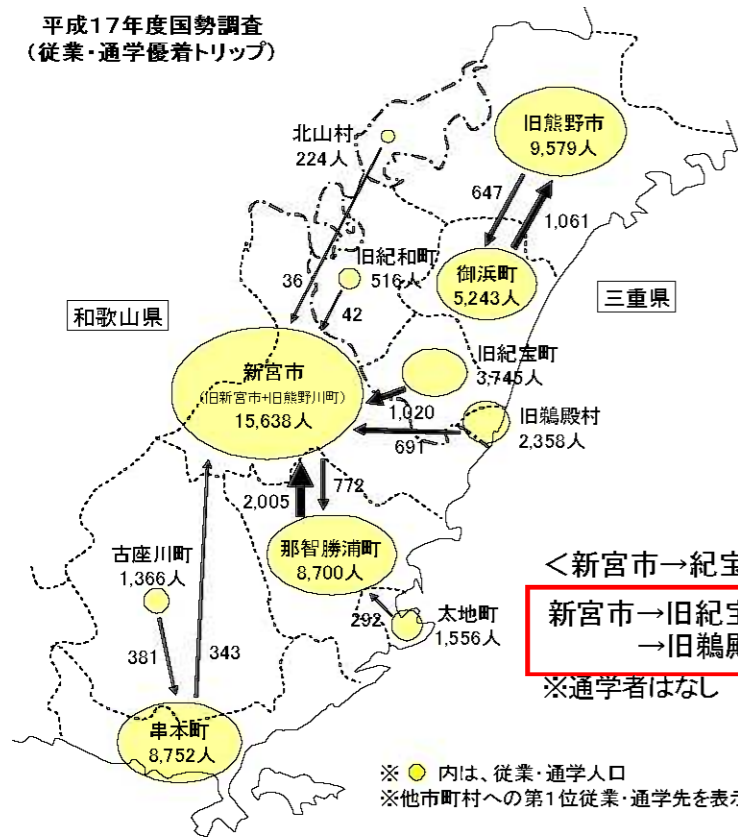
出典:熊野市消防本部ヒアリング

2. 地域の交通の状況

(1) 地域周辺の人の動き

- 周辺地域では、新宮市への優着トリップが最も多く、新宮市を中心とした地域構造となっています。
- 特に熊野川を挟んで隣接する紀宝町（旧紀宝町、旧鵜殿村）在住の就業者・通学者のうち、約3割が新宮市に通勤・通学しています。
- 通勤通学時の交通手段のうち自家用車の利用が、旧新宮市約50%、旧鵜殿村約65%、旧紀宝町約80%と、いずれも高く、自動車交通への依存度が高くなっています。

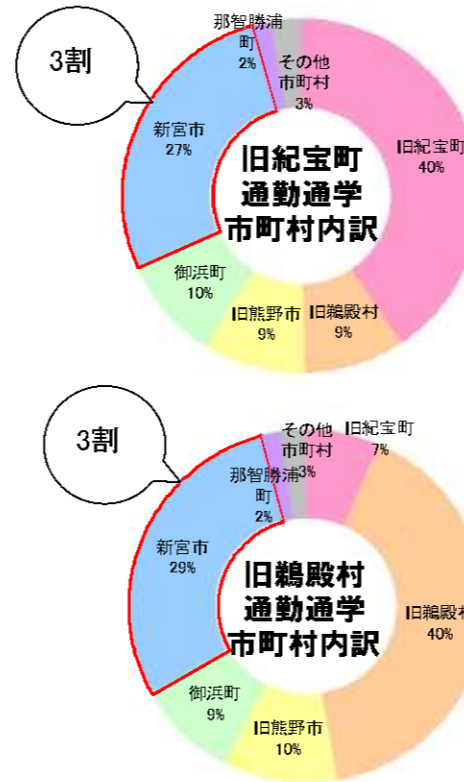
平成17年度国勢調査
(従業・通学優着トリップ)



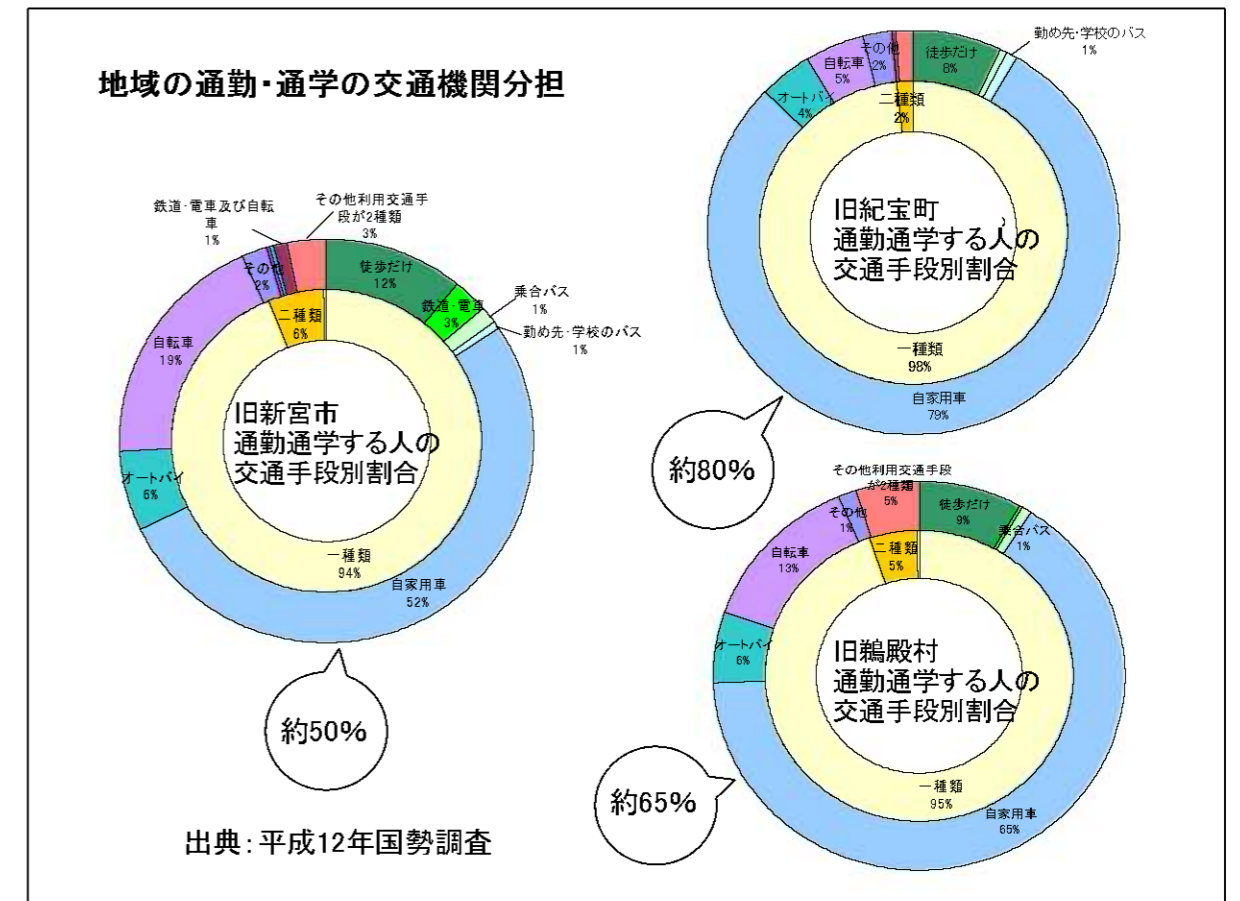
<優着トリップ*>

国勢調査における通勤・通学流動状況に関して、通勤先(従業地)または通学先(従学地)として最もトリップの多い市町村を各市町村別に集計したもの。なお、最も多いトリップ先が自市町村の場合は、他市町村の中で1番多いものを抽出している。
 *トリップ: 人がある目的をもってある地点からある地点へ

旧紀宝町・旧鵜殿村 通勤通学内訳



地域の通勤・通学の交通機関分担



(2) 地域周辺の道路交通の状況(その1:交通量と渋滞状況)

○国道42号は2万台/日程度の交通量を担っており、周辺道路からの交通が集中しています。
 ○特に、熊野川を渡る交通が集中し、また、新宮市街地部では信号交差点が多いため、紀宝町から新宮市方向で渋滞が発生しています。
 ○国道168号との交差点である橋本交差点においても、交差点処理が間に合わず渋滞が発生しています。

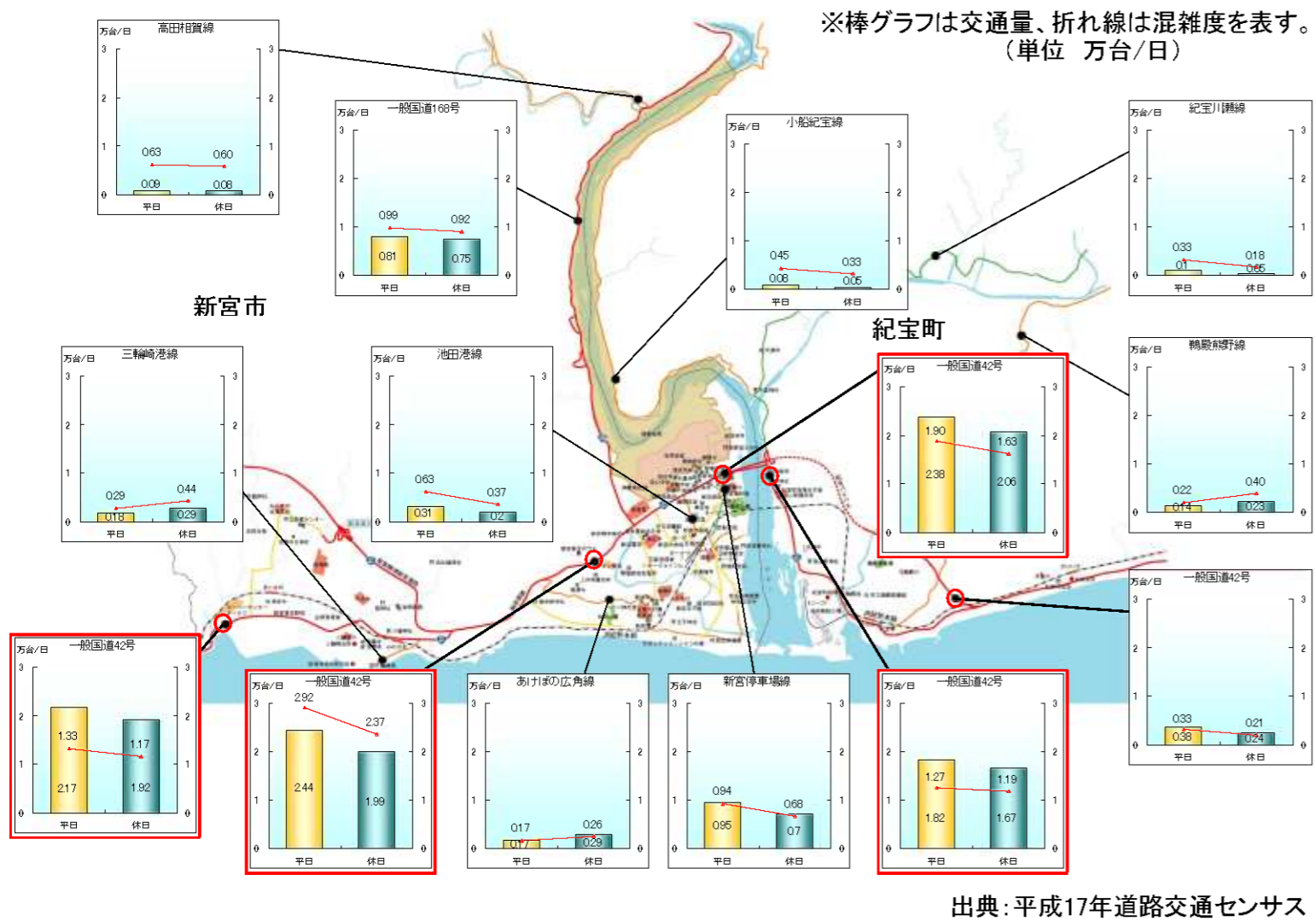


図 周辺道路の自動車交通量と混雑度



図 熊野川河口付近の渋滞箇所

※交差点密度: 交差点数/区間延長(km) 交差点密度が高いほど発進、停止を繰り返すため、事故や渋滞が発生しやすくなります。
 ※信号交差点密度がおおむね2~3箇所/km以上になると交通容量(交通の処理能力)が低下するとされています。

「道路構造令の解説と運用」平成16年2月参考

(3) 地域周辺の道路交通の状況(その2:交通事故の状況)

- 新宮市街地では、全国の幹線道路の平均に比べ約1.5倍の死傷事故が発生しています。
- 紀宝町では、通学路においても歩道未設置区間が存在します。



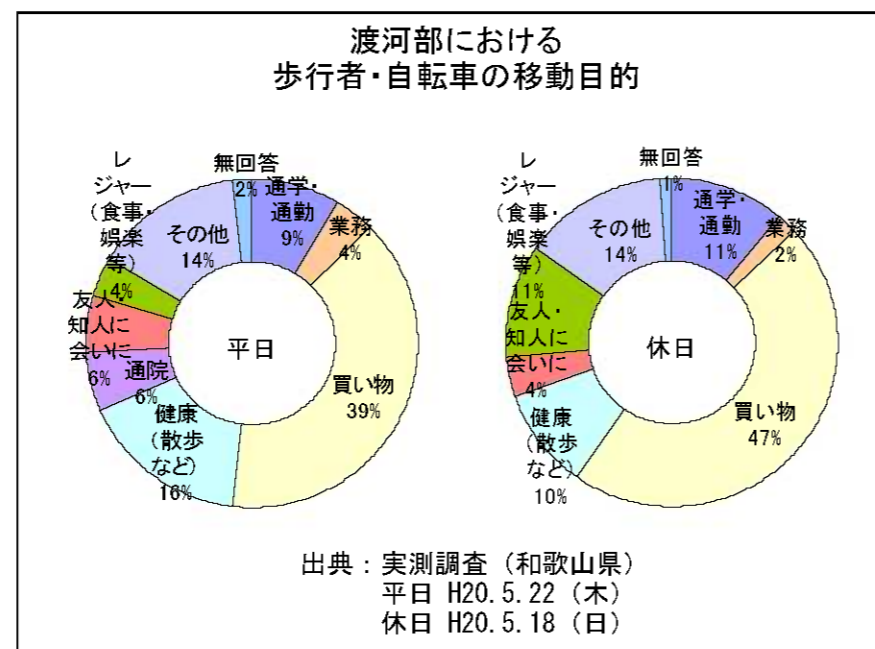
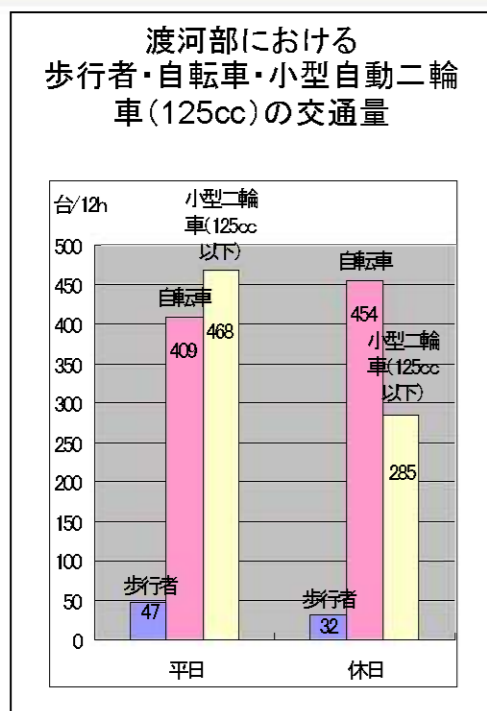
出典：紀南新聞 (H19. 8. 31)



出典：紀南新聞 (H17. 4. 26)

(5) 地域周辺の道路交通の状況(その3:歩行者・自転車等の状況)

- 渡河部では、自転車、小型二輪車(125cc以下)の利用交通が多く、利用目的も通勤通学・買い物・散歩等が多いことから、渡河部においても自転車等による日常的な利用形態が定着しています。



熊野大橋の歩道設置状況(片側) 紀宝町側より新宮市を望む



渡河部の歩道橋 新宮市側より紀宝町を望む

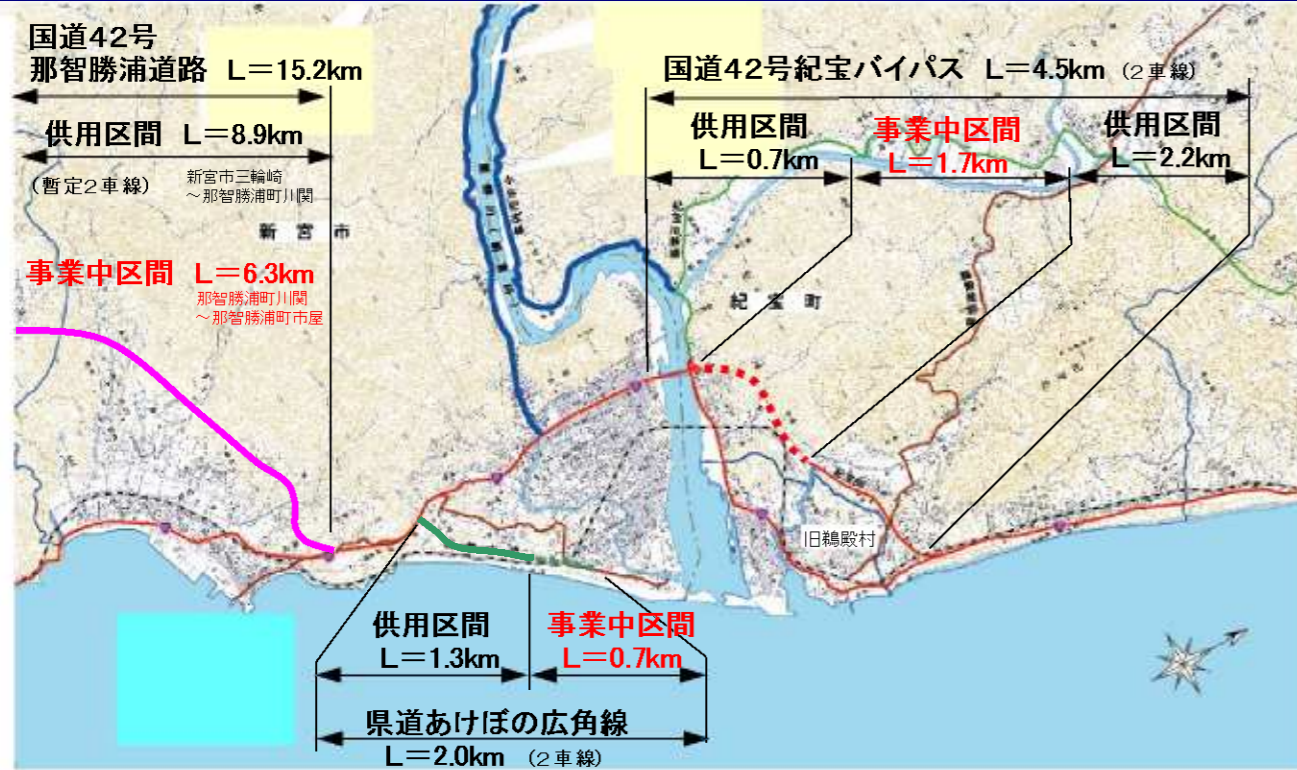


新熊野大橋の歩道設置状況(片側) 紀宝町側より新宮市を望む

3. 地域の道路整備状況

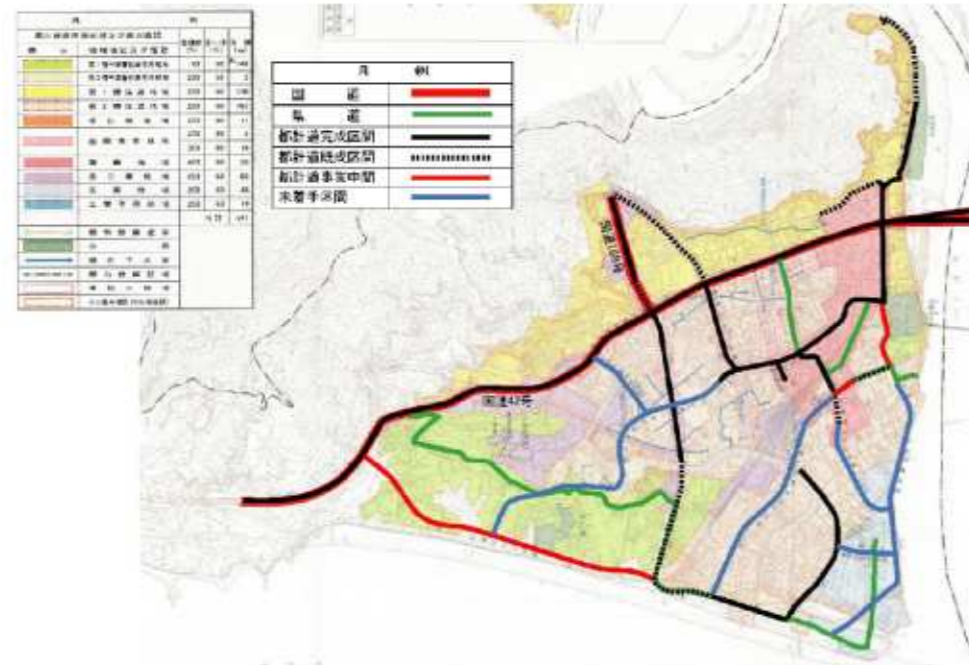
(1) 地域周辺の幹線道路の整備状況(その1)

○地域周辺では国道42号那智勝浦道路（自動車専用道路）、国道42号紀宝バイパス及び県道あけぼの広角線といった幹線道路の整備が進められています。



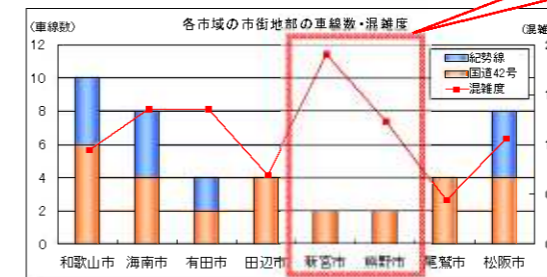
(4) 新宮市内の都市計画道路の状況

○新宮市内の都市計画道路は未着手区間が多く残されており、連続した道路網を形成していません。



(2) 地域周辺の幹線道路の整備状況(その2)

○熊野尾鷲道路、那智勝浦道路の整備が進んでいるが、国道42号の和歌山市から松阪市間で、新宮市と熊野市の市街地で2車線区間が残り、混雑度も高くなっています。



出典：平成17年道路交通センサス

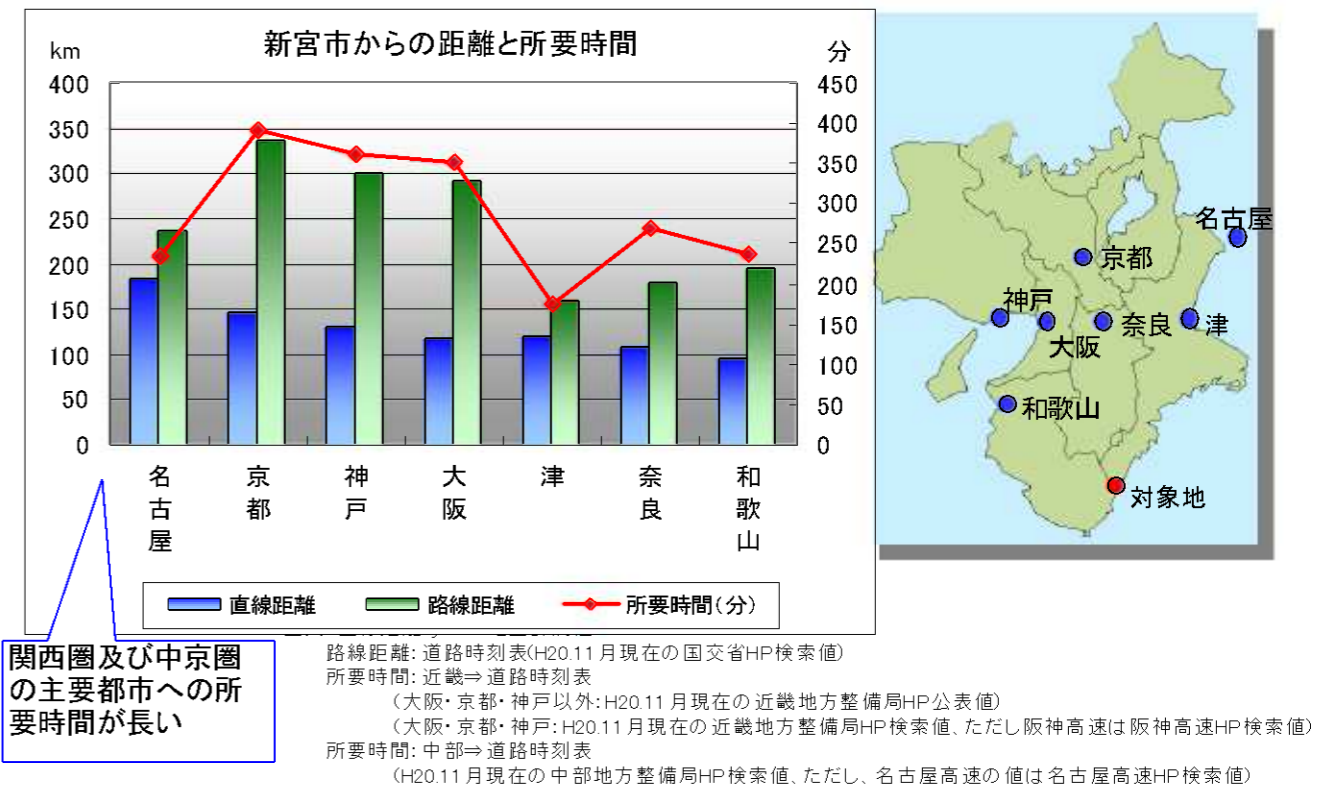
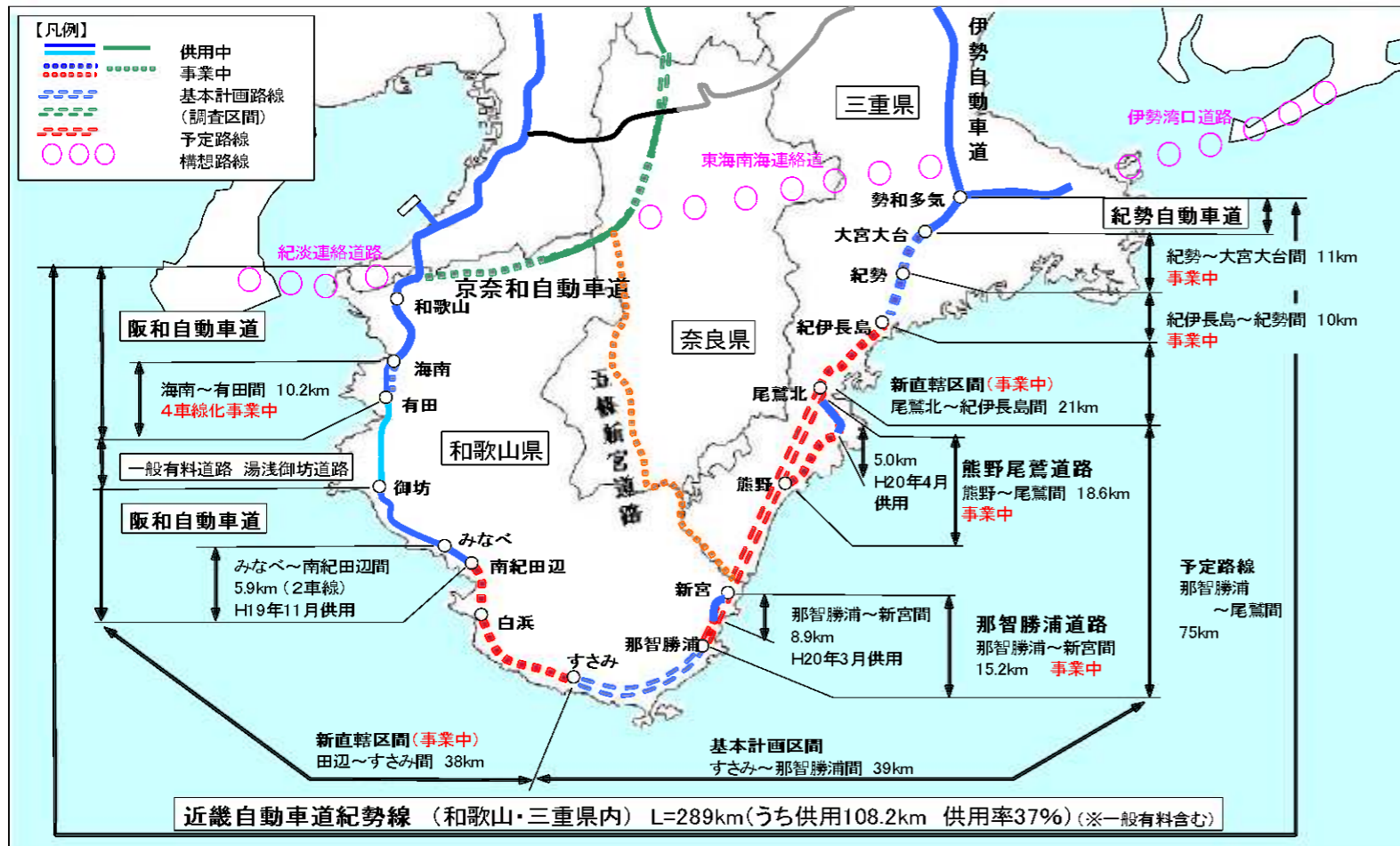
(3) 地域周辺の幹線道路の整備状況(その3)

○東南海・南海地震による被災や交通事故により熊野川河口部に唯一架かる国道42号が途絶された場合、迂回路になる橋は、熊野川上流約20kmに位置しており、避難や災害復旧活動への多大な影響が懸念されています。



(5) 高規格幹線道路網の整備状況

○和歌山県、三重県内の近畿自動車道紀勢線の供用率は約37%であり、現在、整備が進められていますが、すさみ～那智勝浦間、熊野～新宮間が未着手となっています。
 ○当地域から関西圏の主要都市へは、直線距離に比べ移動に必要な路線距離が長く、所要時間も非常に長くなっています。



(6) 総合計画における道路整備の方向

■新宮市総合計画 (2008～2017 : H20.3)

- まちづくりの基本理念
 - ・一人ひとりがまちづくりの担い手
- 政策目標
 - ・元気が出るまち
 - ・安全・安心なまち
 - ・一人ひとりを大切にするまち
 - ・つながりを大切にするまち
- 道路整備の方向
 - ・元気が出るまち/観光交流の促進/行き来しやすい交通アクセスの確保/高速交通体系・国道の整備促進
 - 近畿自動車道紀勢線、五條新宮道路(国道168号)、国道42号、国道169号等の幹線道路の整備促進

■第1次紀宝町総合計画

- まちの将来像と基本理念
 - ・海・山・川の恵みに抱かれ、ともに輝き創造するまち
- まちづくりの基本目標
 - ・安心・安全で快適に暮らせるまちづくり
 - ・ぬくもりとやさしさが誘う、健やかで心あふれるまちづくり
 - ・自然の恵みを生かした、賑わいある産業・交流のまちづくり
 - ・豊かな心を育む、歴史と文化の薫るまちづくり
- 道路整備の方向
 - ・ネットワークの方針
 - 国道42号紀宝バイパスの早期完成、熊野川河口大橋の具体化、国道168号の代替道路としての県道整備、熊野川中流における橋梁整備への取り組み
 - ・安心・安全で快適に暮らせるまちづくり
 - 広域的な道路・交通網並びに町内の交流を促す道路・交通網のバランスのとれた整備

4. 熊野川下流地域の道路計画の課題・論点

(1) 課題・論点の整理

○地域の現状や交通、道路整備の状況を踏まえ、熊野川下流地域の道路計画を考える上での課題や論点は以下の通りです。

生活的機能の観点

①国道42号の渋滞緩和

- ・国道42号の熊野川渡河付近で朝夕をピークに紀宝町から新宮市方向で渋滞が発生しています。
- ・このため、通勤・通学などの日常生活や産業活動に支障を与える要因となっています。

②国道42号の安全・安心の確保

- ・国道42号の新宮市街地部で全国に比べ1.5倍の支障事故が発生しています。
- ・朝夕の渋滞発生時に救急車両の通行を阻害する恐れがあります。

③国道42号の交通容量の確保

- ・国道42号の和歌山市から松阪市間の市街地部で、新宮市と熊野市の市街地で2車線区間が残り、混雑度も高くなっています。
- ・地域周辺で整備中の国道42号那智勝浦道路や紀宝バイパス、県道あけぼの広角線が整備されても環状が形成されておらず、新宮市内へ流入交通量は減少しません。

④歩行者、自転車、小型二輪車の利便性の向上

- ・熊野川を渡河部では、自転車、小型二輪車の利用交通が多く、通勤、買い物等、日常的な利用目的が多くなっています。

⑤国道42号の代替道路の確保

- ・熊野川を渡河する橋梁は新熊野大橋の上流約20kmの三和大橋までありません。
- ・国道42号の交通事故等による通行止め、東南海・南海地震発生時の災害等に対して緊急輸送道路としての代替道路が必要です。

⑥広域交通ネットワークの確保

- ・地域周辺の特産物は主にトラックで名古屋や京阪神に出荷されていますが、都市部までは4時間以上を要しています。
- ・低迷する地域産業の活性化には、都市部の市場へのアクセス時間の短縮が有効と考えられます。
- ・地域の観光客数は減少傾向にありますが、地域周辺には世界遺産を中心とした豊富な観光資源が多く、地域の観光振興には広域的な観光ルートの形成が有効と思われます。
- ・地域には3次医療機関がなく、最寄りの3次医療機関までは2時間半以上も要し、救急搬送時間の短縮が必要です。

広域的機能の観点

「生活的機能」「広域的機能」双方の課題を解決する道路計画はどうあるべきか。

(2) コントロールポイントと概ねのルート候補の範囲

○公共施設、世界遺産、自然公園区域及び土地利用状況等、道路計画上のコントロールポイントと、生活的機能及び広域的機能を踏まえた概ねのルート候補の範囲（提案）を下図に示します。

